



2009年の年末は、いくつかのクリスマスのコンサートを観賞し、またイブの夜は家内と一緒にウィーンの教会で過ごし、約1ヶ月続いたクリスマスマーケットと合わせて、すっかりウィーンのクリスマスを満喫することができました。

クリスマス終了後は一時帰国して、日本で年越しをし、お正月を過ごしました。約2週間を日本で過ごしましたが、テレビでウィーンのニューイヤーコンサートなどを見ていると、ウィーンで生活していたことがまるで夢の中の出来事だったのか?とってしまうくらいに、遠い場所のことに思えてしまったのですが、また今はそのウィーンが現実の生活の場となっていることを考えると、何とも不思議な感覚に襲われてしまいます。

帰国中は、ショッピングに明け暮れました。欧州では入手困難な物をいろいろ買い込んでいたのですが、その中では小型のノートパソコンや電子辞書などの電化製品、欧州を中心とした旅行ガイドブックなどが金額的にはかなり大きいのですが、それ以上に重宝したのが100円ショップの存在でした。欧州でも1ユーロショップなどを見かけることはあるのですが、ウィーンにはこうしたお店は存在せず、こんなにも便利で品揃えのよいお店があるのか!と感心しながら、様々な生活用品を購入していきました。あまりにも大量に買い過ぎて、スーツケースには到底入り切らないほどになったため、結局は郵送することになったのですが、これではせっかくお手頃価格の1品当たり100円では済まない額になってしまい、やっぱりウィーンで少々高価な生活用品を調達した方がよかったかも、と思ったりもしています。

出国時の空港でのチェックインの際には、荷物重量の規定値からオーバーしていることを指摘され、「1kg当たり30ユーロを頂きます。」と言われ、慌てて郵便局で段ボール箱を購入し、荷物を積み直す作業が発生してしまいました。家内と2人で15kgほどオーバーしていたのですが、抜き取った荷物の送料が約110ユーロとなり、しかももし送付できない物があったり、送付品の内容記載が不正だった場合は、送り返される可能性があるため、郵便局でも散々脅かされてしまいました。どうもテロ多発によって、航空会社も運送会社も相当神経質になっているようで、今までの少々重量オーバーがあっても、スーツケースが1人1個であれば特に何も言われなかった時代は終わってしまったようです。海外旅行や出張される際は、十分にご注意いただきたいと思います。昨年の欧州内出張の際にも、展示会の資料を詰め込んで重量オーバーとなって、超過料金を支払わされた経験をしていたので警戒はしていたのですが、どうも航空会社はこの重量超過料金徴収を本気で実施している感じがします。

さて、お正月明けに残念なニュースが飛び込んできてしまいました。小澤征爾さんが、病気治療のために半年お休みされるとのことで、せっかくお正月明けに小澤さん指揮のオペラを見に行こうと計画していたのが、宙に浮いてしまいました。また、今年5月末のシェーンブルン宮殿の野外コンサートの指揮も見られなくなってしまいました。昨年6月に腰の手術でお休みされたことに続き、ウィーンオペラ座の音楽監督の任期も2010年までの予定とのことで、こちらに滞在中に小澤さんを本当に見られるのだろうか?と少し不安を感じています。早く回復されて、またお元気な姿を拝見できることを祈っています。

写真は寒波に見舞われた日のオペラ座周辺です。



ジェトロ・ウィーン・センター
産業機械部 杉山 雄彦